

## 夏期コース「茶道体験」と年間コース「茶道クラブ」

結 城 佐 織<sup>1</sup>

### 【要旨】

本稿はアメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの2015年の夏期コースで行った茶道体験と2015-16年度の年間コース第4学期に行った茶道クラブの実践報告である。前者は抹茶を点ててみるという一日体験であり、後者は全7回で盆略点前習得を目指すというものである。

本報告では、本センターで茶道体験を始めたきっかけ、具体的な活動内容、茶道クラブで用いた道具の由来や理由、学生の反応などを記述した。夏期コースの茶道体験では学生21名、年間コースの茶道クラブでは学生2名の参加があった。

### 【キーワード】

裏千家、初心者対象、学校茶道、日本以外でもできる点前

### 1 茶道体験（夏期コース）

2015年の夏期コース<sup>2</sup>で茶道体験を行った。これは筆者が担任をしたクラスのある男子学生が抹茶を点ててみたいと言ったのが始まりだった。学生全員に声をかけて実現した。授業最終日（7月31日）の午後にセンターの22番教室<sup>3</sup>で行った。学生21名の参加に加え、教員3名も参加した。

抹茶と菓子、棗3つ、茶碗10碗、茶筥6本、柄杓2本、菓子器2つ、箸、黒文字2組、懐紙、ポット2つを用意した。まずは菓子の食べ方。次に抹茶の点て方を行った。筆者は裏千家であるため、作法はすべて裏千家のものである。

初めて抹茶を点てる学生が多く、一服目はうまく点てられなかった学生が多かった。せっかくなのでもう一服というと、皆積極的に点てていた。抹茶は力づくで茶筥を振ってもうまく点たない。大事なものは抹茶の量と湯の量と温度である。これは経験によるところが大きい。勘の良い学生は二服目はかなり上手に点てていた。反対に、経験があると豪語している学生でも、久しぶりでうまく点たないこともあった。おいしい一服を点てる奥深さを感じ取ってくれたようだ。

菓子は若鮎にした。鮎漁解禁が6月であり「鮎」は夏の季語となっている。初夏の茶菓子として用いられる。茶道体験ではカステラ生地で作った求肥をつつみ、鮎の焼印をしたものを選んだ。この菓子がなかなか好評だった。中が求肥なので、口に合わない学生もいるかと心配したが無用であった。菓子の食べ方では、後に食べる人に挨拶してから自分の分をと

ののだが、恥ずかしそうにしている学生が多かった。また、菓子器に置かれた箸をマナー通りに扱うのも難しかったようで、苦勞していた。

全体的に熱心だった。講師としても初々しい反応を見るのはうれしく、また何より学生が喜んでくれたことにやりがいと喜びを感じた。抹茶を点ててみたいといってくれた男子学生に感謝したい。

## 2 茶道クラブ（年間コース）

2015-16年の年間コース<sup>4</sup>の茶道クラブは4学期の2016年4月1日（金）に始動した。

茶道クラブ始動に当たり、まず3学期に説明会を行った。筆者はセンターでの茶道指導は初であるため、少人数で行うことにした。本年度はDさんとWさんが入部した。全七回で盆略点前の習得を目指すというものであり、初心者を対象とした。

### 2-1 盆略点前（ぼんりやくでまえ）

盆略点前は風炉の上に鉄瓶や銀瓶を掛け盆の上で点前をする。盆略点前には柄杓や水差しの扱い、道具の拝見がない。手数が少ないため基礎をしっかりと学べ、点前の基本的な流れも身につけられるという初心者に適したものであり、学校茶道<sup>5</sup>で用いられることが多い。

また、風炉と鉄瓶をポットに変えたポット点という点前も存在する。ポット点の利点は、風炉や鉄瓶、釜などの茶道具を揃えにくく、和室や茶室のない外国でも、立礼形式、つまりテーブルの上でも気軽に点前ができることである。近年はインターネットで比較的安価な学校茶道盆略点前セットを購入できる。

センターの茶道クラブに盆略点前を選んだのは、初心者が対象である、実施回数が少ないということもあるが、茶道クラブの学生がセンターを終え、自国に帰国した後にも、日本以外でも、家族や友人に盆略点前で一服差し上げられることができる点前だと考えたからである。

尚、センターではポット点で行った。

### 2-2 活動内容

#### 2-2-1 基本道具

- ・畳ゴザ（江戸間六畳、縁付き）

#### 【床の間】

- ・軸 一行もの（陶淵明「夏雲多奇峰」、佳泉書道会主宰 永井櫻舟筆）<sup>6</sup>

- ・花（時候のもの）<sup>7</sup>
- ・花入（美濃 ひさみ窯、タタラ造り、山口正孝作）
- ・敷板（塗り、木地）

#### 【点前道具】

- ・裏千家盆略点前セット（山道盆、茶筌、茶杓、茶巾、茶碗（高台寺蒔絵）、棗（ツボツボ）、建水（黄瀬戸））
- ・茶碗（桜、お福さん）
- ・棗（星空）
- ・茶筌（3本）<sup>8</sup>、茶杓（2本）、茶巾（2枚）
- ・抹茶（小山園 松柏）
- ・菓子器（櫻の盆、瓢箪の盆、兎の焼き物）、菓子（時候のもの）、箸
- ・ポット（電気ケトル）

#### 【その他】

- ・雑巾、布きん
- ・茶掃箱（水屋茶杓、茶杓、茶筌先）
- ・水（ペットボトル 2L、毎回）

上記は講師が用意。そのほかに学生は「裏千家学校茶道入門セット」（扇子、帛紗、古帛紗、懐紙、楊枝、楊枝差、帛紗ばさみ）を各自購入し、畳を拭くための雑巾と茶碗などを拭くための布きんも用意した。

道具にはできるだけ茶道の話のできるものを用意した。たとえば、一行物の掛け軸「夏雲多奇峰（かうんきほうおおし）」は陶淵明の「四時」の「春水満四澤 夏雲多奇峰 秋月揚明暉 冬嶺秀孤松」の一部であり、茶席では夏の掛け軸としてかけられる。村井他(2004: 123)『新版 茶道美術手帳』の禅語一覧にも記載がある。また、茶碗の高台寺蒔絵は桃山時代に流行した代表的な絵巻であり、豊臣家と関係が深く茶の湯で多用される。高台寺のホームページには「（ねねの眠る高台寺の霊屋には）桃山時代の華麗な蒔絵を施した階段や厨子が今も残っています。これらの蒔絵は高台寺の蒔絵として世に知られ、同様の技法や類似した意匠の蒔絵が一般には「高台寺蒔絵」と総称されるようになりました」とある。棗のツボツボ紋は裏千家の紋であり、茶名をいただいた際「特別許」<sup>9</sup>として使用することを許される紋様である。

Dさんは菓자에興味があり、「月世界」と「桜（干菓子）」の組み合わせにした際、「夜桜」という趣向を読み取っていた。Wさんの専門は文学でありかつ書道クラブ<sup>10</sup>にも所属しており、書にも造詣が深い。筆者が用意した掛け軸を見てすぐに読めた。このように、

茶道は点前の順序だけでなく、道具組から日本文化に通じた趣向を読み取るなどのセンスと知識も必要である。DさんとWさんにはその心得があった。

## 2-2-1 稽古内容

茶道クラブは毎週金曜 15 時 15 分から 16 時半まで、21 番教室で行った。以下は稽古内容の記録である。

- |     |       |  |
|-----|-------|--|
| 説明会 | 3月27日 | 稽古に必要な道具（裏千家学校茶道入門セット）<br>心構え（利休道歌など）<br>北見宗幸 (2007: 8-24)「序章 お茶の世界に触れる」<br>注意事項（服装など）   |
| 第1回 | 4月1日  | 準備の仕方（畳拭きを含む。雑巾での畳拭きから稽古が始まる）<br>挨拶の仕方（真・行・草）<br>畳の歩き方（四畳半）<br>床の間の拝見の仕方（花）<br>道具の拝見の仕方（釜）<br>菓子の食べ方（干菓子）<br>お茶の立て方（棗の扱い、茶杓の扱い含む）<br>片付け方（畳拭きを含む。雑巾での畳拭きで稽古が終わる） |
| 第2回 | 4月15日 | 前回の復習<br>帛紗のつけ方、たたみ方<br>茶杓の清め方<br>畳のにじり方<br>お茶の出し方<br>挨拶の受け方（亭主）<br>菓子の食べ方（主菓子、盆、黒文字の扱い）   |
| 第3回 | 4月22日 | 前回までの復習<br>棗の清め方<br>茶巾の畳み方<br>茶碗の拭き方（前半）   |
| 第4回 | 5月13日 | 前回までの復習<br>床の拝見の仕方（掛け軸、花）<br>茶碗の拭き方（後半）<br>茶筥通し<br>お点前（前半） 菓子の挨拶まで   |

- 茶席での会話（道具の尋ね方など）
- 第5回 5月20日 前回までの復習  
お点前（後半） \*割り稽古終了<sup>11</sup>  
菓子の食べ方（主菓子、盆、黒文字の扱い）復習  
茶席での会話（お点前中）  
お点前（通し）
- 第6回 5月27日 前回の復習  
浴衣を着てやってみる（講師のもの）  
お点前  
型の直し  
通してやってみる  
一服差し上げてみる（教職員3名）
- 第7回 6月3日 前回までの復習  
浴衣を着てやってみる2（講師のもの）  
半東<sup>12</sup>の練習  
点て出し形式で一服差し上げる（教職員3名）  
茶会形式で一服差し上げる  
一席目：教職員3名  
二席目：学生3名（Mさん、Dさん、Cさん）  
菓子の食べ方（焼き物の菓子器）

Dさんはニューヨークで表千家の体験コース（2時間）を受講したことがあるそうで、全体の流れがわかっていた。Wさんも茶道を数年前に体験したことがあるという。このため、2人に点前を指導するのには苦勞しなかった。

まず心得として、稽古は畳を雑巾で毎回拭くということから始め、次に礼の3種類（真・行・草）を指導した。Wさんは草の礼が美しく、そのまま茶会に出してもよいほどだった。

全7回で盆略点前の習得を目指し始まった茶道クラブであったが、Dさん、Wさんともに覚えが良かった。特にDさんは第6回にはほぼ習得していたため、型直し<sup>13</sup>も行うことができた。なかなか覚えられない日本人もいる中で、その熱意に感心した。普段の稽古ではDさんとWさんのみで点てて飲むだけなので、センターに居合わせた教員を客とし、一服差し上げる稽古をした。

最終日には総まとめとして茶会形式の稽古を行うことにした。より茶道の雰囲気味わってもらおうと、第6回と第7回は浴衣を着て稽古をしてみた。DさんもWさんも浴衣ですんなりにじっていた<sup>14</sup>。当日半東の稽古をしたが、2人とも指示通り体が動く。これならば最後のまとめとして茶会形式で一服ふるまうことも可能だと判断し、急遽センターに

いあわせた教職員と学生に客を願い、茶会形式での稽古を行った。

DさんもWさんも多少緊張していたようだが、そつなくこなしていた。一席目では半東のWさんが茶の飲み方、菓子の食べ方、軸の文字などを説明していた。二席目に半東だったDさんは、客が学生だったこともあり、道具組や趣向などの席中の会話も弾んでいた。2人とも茶道を通じてもてなしの心を表現できる学生であった。こうして無事全7回の稽古が終了した。

以下は、第7回の稽古風景である。

### 第7回 茶会形式稽古（一席目）

点前（盆略点前、ポット点）：Dさん 半東：Wさん 客：教職員3名 講師：筆者



### 第7回 主菓子：練りきり（千鳥）



## 3 おわりに

多くの方のご理解とご協力に支えられ、茶道クラブを行うことができた。この場をお借りして心より感謝申し上げたい。

全7回という短い期間であったが、盆略点前の手順を一通り教えることができ、茶会形式の稽古までできたことはひとえに学生の熱心さによるものだと思う。2人の学生の日本文化に対する興味と感心、理解は、教えている私のほうが学ぶところが多かった。近年日本学が注目されているが、今後茶道を通じて何かしらの形で貢献できればと考えている。また環境が許し、学生の希望者がいたならば、また是非茶道クラブを行いたいと思う。

## 注

- 1 アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター講師。裏千家茶道専任講師（茶名）、裏千家淡交会会員、裏千家学校茶道指導者。裏千家茶道秋山宗智準教授清々会本部所属。清々会では佃中学にて学校茶道指導も行う。清々会にはロシア支部も含まれる。
- 2 [秋澤委太郎 \(2015\)](#) を参照のこと。
- 3 12畳程度の教室。
- 4 [大竹弘子 \(2016\)](#) を参照のこと。
- 5 学校茶道とは、「明治の初め文明開化の中で西欧文化が移入され、第11代家元玄々斎宗匠は日本の伝統や文化が否定される風潮を憂い、当時限られた人たちの楽しみであった茶道を教育に役立てようと、女学校にその門戸を開放したことに始まる」（裏千家ホームページより）。学校茶道指導者のもと学校茶道を終了した者は、裏千家から証を受けることができる。筆者は学校茶道指導者ではあるが、全7回という短い期間ではかなわなかった。但し、茶名所持者は許状を申請することができるため、学生が希望すれば裏千家の入門・小習の許状を筆者が申請することはできる。
- 6 秋山宗智準教授よりセンターの茶道クラブにと寄付して頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。
- 7 茶席では花を購入することもあるが、センターでは筆者の自宅に咲く花や、茶道の先輩にいただいた花などを用いた。
- 8 茶筌、茶巾などは消耗品である。消耗品、特に茶筌は、慣れない人が茶を点てると曲がったり折れたりし、1回で使い物にならなくなる場合がある。このため、予備を数本は用意しなければならない。
- 9 実際の「特別許」の写真を、センターのホームページに載せてある。写真上で左クリックをすると出てくる仕掛けになっている。
- 10 小林絃子 (2002) を参照のこと。
- 11 点前を分けて個々に稽古すること。
- 12 亭主（この場合は点前）の補助役をつとめる者のこと。
- 13 手の角度や向きなど点前の形を直すこと。
- 14 正座をしたまま進むこと。

## 参考文献

- 秋澤委太郎 (2015) [「2015年度夏期コース報告」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教育研究年報』第4号](#)
- 大竹弘子 (2016) [「2015-16年度カリキュラム報告 —アメリカ・カナダ大学連合日本研究セ](#)

ンターの中上級日本語集中教育」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター  
教育研究年報』第5号

北見宗幸 (2007)『DVD ではじめる茶道入門』(DVD 付) ナツメ社 pp.8-24

小林紘子 (2002)「書のクラス 授業報告」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター  
教育紀要』第25号

村井康彦、筒井紘一、赤沼多佳 (2004)『新版 茶道美術手帳』 淡交社 p.123

【ホームページ】

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (2016年6月15日現在) 「教員紹介」

[http://www.iucjapan.org/html/faculty\\_j.html](http://www.iucjapan.org/html/faculty_j.html)

裏千家 (2016年6月15日現在) 「学校茶道」

<http://www.urasenke.or.jp/textm/gakucha/g-about/index.html>

高台寺 (2016年6月15日現在) 「高台寺蒔絵」 <http://www.kodaiji.com/makie.html>